

令和8年度（2026年度）

試験区分	3年次編入
学部学科	国際政策学部 学科共通
教科科目等	小論文
出題の意図	<p>「山梨県立大学 国際政策学部 3つの方針」に規定される「入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）」においては、「思考力・判断力・表現力」を「様々な事象を自ら考え、それを自分の言葉で表現することができる」能力と定義したうえで、3年次編入学試験においては、「小論文によって主に思考力・判断力・表現力を……評価する」としている。</p> <p>この方針のもと、本問は、設問において示した9テーマについて、3年次に編入するに値する知識や関心を幅広く有し、その構造と問題点をローカル及びグローバルな視点、さらには経済的・社会的な視点などを含めて論理的に説明でき、かつその是非についての自己の見解を裏付けとなる根拠とともに述べることを問う設問である。</p> <p>また、国際政策学部では2年次修了までに4つのコースそれぞれの基礎科目等の履修を通じた「コース基礎力」を身につけることを方針としていることからして、3年次編入生はそうした基礎力に相当する能力を有していることが必要となる。これを踏まえ、本問では、単に自己の知識や関心を述べるというのではなく、設問において示した「揺り戻し」というフレームワークに沿う形で自己の知識や関心を述べるよう求めることで、3年次に編入するに値するより高いレベルでの考察・論述能力を有しているかについても審査するものである。</p> <p>評価は、知識理解、論理性、躍動性の3つの観点から行う。知識理解に関しては、「揺り戻し」の構造を適切に理解した上で、現在の日本社会又は国際社会における「揺り戻し」を少なくとも3つ挙げ適切な説明を行うことができるかという点から評価を行う。論理性については、受験者が選択した「揺り戻し」の事象について、いかなる状態を受験者が是とし又は非とするかの見解が論旨に矛盾なく適切に論ぜられているかという点から評価を行う。躍動性については、知識理解や論理をふまえて、多様で発展的な発想で自己の見解を提示する潜在的な力を有するかという点から評価を行う。</p> <p>なお、解答においては何らかの特定の正解を求めているわけではなく、受験者の見解自体が評価に影響することは想定しない。</p>

山梨県立大学